

活性化、人材育成 5大学で継続へ

福井大「拠点フォーラム」

福井大が取り組む「地(知)の拠点(COC)事業」の第4回フォーラムが22日、福井市の同大文京キャンパスで開かれた。写真。本年度で終了する事業の成果を総括、地域活性化と担う人材の育成について、今後は県内5大学で展開する地方創生推進事業「COC+」の枠組みで継続していく方針を確認した。

同事業は、大学が自治体などと連携して地域の課題を共有し、地域再生や活性化の拠点となることを目標としている。2013年度に文部科学省の採択を受け、▽人材育成

▽ものづくり▽地域医療—など5分野で24事業を展開してきた。

フォーラムには学生・教員ら64人が参加。5分野の一つ人材育成では、理科好きの子どもを増やすために県教委と連携し、理科教師のスペシャリストを養成したことを報告。4月から理科担当の教諭とな



る同大学生は、「教員間で成功した実験情報を共有するなど、他では学べない経験やスキルを得られた」と述べた。

永平寺町など連携した自治体からの成果報告もあった。閉会あいさつで中田隆二副学長は「大学教育の基本は人づくり」と話し、今後も取り組む意向を示した。(中野克規)